

高齢者や障害者を守ろう！

《高齢者や障害者を災害から守るために》

平成31年1月1日現在、東京消防庁管内における65歳以上の方は3,051,759人で、東京消防庁管内人口13,074,355人の23.3%を占めています。高齢者に関する防火防災対策の強化がますます重要になっています。また、障害者においても、災害時の自力避難が困難なため、高齢者と同様に防火防災上の支援が不可欠です。

こうした状況の中、東京消防庁では、高齢者や障害者等のうち災害への対応力が弱く、災害時に支援を必要とする方々の安全対策に係る各種取組を推進しています。

《高齢者の「ころぶ」事故を防ごう》

ころぶ事故は、高齢者の日常生活事故のうち約8割を占めています。

「ころぶ」事故の約半分以上が家の中で発生しており、原因の多くは家の中の小さな段差や階段などです。高齢者は若い人と比べ、ころんだ際に重症化しやすく、寝たきりになる場合もあります。



◆ころぶ事故により救急搬送された方の症状の程度別の人数

(平成29年中のデータを使用しています)

約4割が中等症*以上！

※ 中等症

生命に危険はないが入院を要するもの

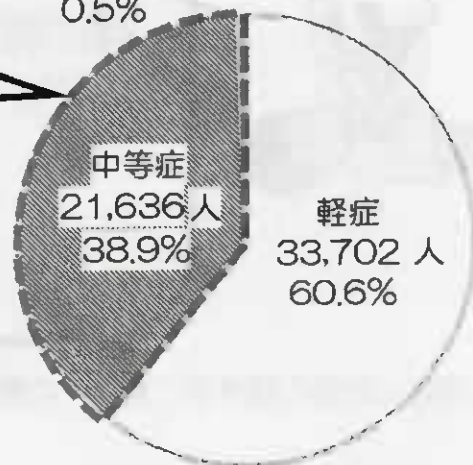


ころぶ事故を防ぐ注意点は裏面に記載されています。

重症以上
276人
0.5%

中等症
21,636人
38.9%

軽症
33,702人
60.6%



事故防止の心得

- 立ち上がる時は近くのものにしっかりとつかまりましょう
- 着替える時には無理して片足立ちせずに腰かけましょう
- 体力を増強して、つま先を上げてすり足を改善しましょう
- 乗り物に乗り降りする際は足元の段差に気を付けましょう
- 自転車で段差を乗り越える時は、急がずあわてず慎重に乗り越えましょう
- エスカレーターに乗る時は、しっかりと手すりをつかみましょう

《住まいの防火防災診断を実施しませんか》

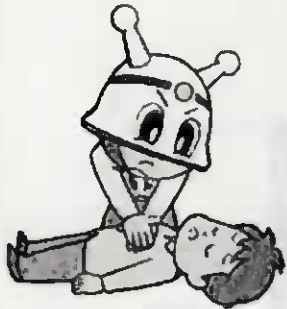
平成30年中に東京消防庁管内で発生した住宅火災による死者66人のうち、高齢者は49人(74.2%)と、高い割合を占めており、高齢者の居住環境の安全化を図ることが、火災による犠牲者を減らすために必要不可欠であると言えます。

東京消防庁では、高齢者等の安全・安心を確保するための取組として、「住まいの防火防災診断」を推進しています。「住まいの防火防災診断」とは、消防職員が高齢者等世帯を戸別訪問し、区市町村、福祉関係機関、町会・自治会等と連携しながら、当該世帯の居住環境の安全対策等を行うものです。



高齢者に対する住まいの防火防災診断の様子

ご興味を持たれた方、ぜひ診断を受けたいと思われた方はお近くの消防署までご連絡ください!!



昭島消防署定期普通救命講習

10月20日(日)午前9時から

目の前で倒れた家族を救えるのはあなただけです

救命講習を受けましょう

お申し込み、お問い合わせは昭島消防署救急係まで

なお、教材費(¥1,400)が必要となります。